

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1091100154		
法人名	株式会社ティエムコーポレイション		
事業所名	グループホームなないろ		
所在地	群馬県安中市宿2153-1		
自己評価作成日	平成27年10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成27年11月24日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>①明るく清潔感があり、それぞれの個性を大切に「我が家」のようなホーム作りにも努めている。                  ②専従のキッチンの方がいるので食事は家庭的な手作り料理を心がけている(誕生日ケーキも手作り)</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>法人の理念のほか、事業所の理念「地域社会の一員として、その人らしい暮らしが続けられるように支援します。」を掲げ支援している。利用者の思いや意向を把握するとともに、正月の絵馬や七夕飾りの短冊に一人ひとりに希望や願い事を書いて頂き、その実現のためパチンコへ出かけたり、退院後拒食になってしまった方の「元気になるたい」を可能にするため全職員が食事支援に取り組み、食べられるようになった事例もある。食事においては、月2回のお楽しみランチを利用者と職員で計画し、食事作りをしたり、誕生日ケーキを作ったりしている。運営推進会議では参加者の意見や提案を受け、職員の名札の着用と事業所内の職員顔写真を掲示して、会議メンバーや家族との馴染みの関係を築きながら支援に取り組んでいる。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時、理念を唱和し管理者、職員共に確認を行い、その理念を共有することで業務の反映を図っている。	法人理念のほかに、事業所の理念「地域の一人として、その人らしい暮らしが続けられるよう支援します」を掲げ、毎朝唱和し、ミーティングや職員会議で具体的なケアについて話し合いをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区のお祭り(秋祭り10/24)や神社への初詣に参加。 月に1度傾聴ボランティアの来訪がある。近所のスーパーへ行ったり、地域との交流を今後も図って行きたい。	地域の祭りや近くの神社へ初詣に出掛けたり、公民館で子供達とふれあう等、地域の人たちと交流している。祭りには、事業所の庭へ山車が来て利用者も楽しんでいる。その他、事業所のバーベキュー大会には、地域の方も参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の時に課題にあげたり、日々地域の皆さんにお話しをし、理解して頂ける様努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間行事や、利用者の状況など報告し、意見交換を行ったり勉強会をしている。	運営推進会議開催時は、事前に家族等に案内を郵送している。会議では、利用者状況や事業所の活動報告を行ない、意見交換している。意見のなかから、事業所内に職員の顔写真を掲示し、名札の着用を行うなど運営に活かしている。	会議開催において、日程の検討などにより多くの参加を得られるような取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいたり介護相談員の受け入れなどして相談、連絡を密にして指導いただいている。	市の担当者とは、運営推進会議の他に更新申請、事故報告書提出時等に事業所の実情を伝え、相談をしている。年度初めに、市の担当者を招き勉強会を行ない、ケアマネ調整連絡会議への参加や介護相談員の受け入れをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束はしないケアに取り組んでいる。玄関も開放し施錠はしていない。	玄関は施錠せず見守りを重視し、利用者の不穏時は職員と一緒に敷地内を散歩して会話を多くする等して支援している。居室内での転倒が予測される場合には、居室変更や夜間時は居室前で見守りながら事務処理等を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時の全身観察、日頃の状態観察から見過ごすことのないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方は現在いないので、職員は学ぶ機会が少ないがそれらを活用出来る支援が出来る様にしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者、家族への説明を行い、傾聴し、確認を行っている。改定時には書面及び口頭にて理解、納得できるよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2カ月に1回、利用者、利用者家族、民生委員、地域住民等をまじえ、運営推進会議を開催し、意見交換を行っている。	家族の面会時に、直接意見や提案等を聞くようにしている。利用料支払いは、なるべく持参して頂き、利用者の状況を伝え、外出事参加への意見等を聞いている。出された意見は、会議で話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや全体会議にて意見交換をしている。	毎月、全員参加による会議やミーティングにより、意見交換をしている。会議には自分の意見を発言できるよう準備し、前もって「申し送りノート」に書いておくこともできる。行事計画や業務時間の見直し等話し合わせ、働きやすい職場づくりを目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に代表者は職員の相談にのりやりがいのある職場環境作りや向上心がもてるよう働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修や外部での研修に参加する機会をもうけ、職員の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修等に参加し、同業者と交流する機会をもうけ刺激を受けサービスの質が向上するよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者や介護支援専門員が本人家族の要望等に耳を傾け安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	気軽に相談できる様、関係を築きつつ信頼してもらえるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の要望、家族の要望を聞き取りながら必要としている支援を見極めサービスにつなげられる様、努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の言動、出来る能力を見極め見守りながら過度の支援とならないよう、共に支え合える様な関係を築ける様努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは連絡を密にし信頼関係を築き共に本人様を支え合う関係でいたいと実践している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出を通じ利用者のこれまでの人間関係を尊重している。地域の活動に参加出来る様にしている。	家族・孫の他に、知人の面会があり、面会時には本人の在宅での生活など様子を聞き、支援に努めている。地域行事のお祭り等に参加し、友人などと再会する等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者がひとりにならないよう目配り気配りをし(安心して)過ごせる様努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時には面会に行ったり家族と相談ののったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人の希望、意向を把握できるよう話を聞いている。家族来訪時、声かけをさせていただき意向が伺える時はお話を聞き検討している。	日頃の関わりのなかから、本人の希望等を聞くようにしている。また、季節行事の七夕飾りの短冊や絵馬に希望を書いて頂くなど、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合には表情やしぐさを観察し、食事においては食事摂取状況から、好みの物を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やなじみの暮らし方、生活環境は初期に把握する努力をしている。利用している中での会話の中より再度把握したり、家族との会話中より把握出来る事もあるので努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、ミーティングなど通し日々の心身状況を職員全員で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族の意見や要望を聞き、利用者担当職員より話を聞きモニタリングやカンファレンスを行って介護計画の見直しや作成に活かしている。	介護計画は、本人や家族の意見等を聞き、職員間で話し合い作成している。ケアマネジャーは、利用者の担当職員に、個人モニタリング票を渡し、毎月実施後、参考に話し合い、3ヶ月毎に見直しを行い、介護計画作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り、日々の記録、担当職員による個々のモニタリング記録の情報を共有し、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々個々の状況に応じ出来る限りの支援を行い柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、ボランティア、民生委員など連携を取り、地域とさまざまな接点を見出す努力をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診診療あり、その他でも基本的に家族付きそいの受診となっているが無理な時には受診介助を行っている。	本人、家族の馴染みのかかりつけ医の受診を支援している。契約時に協力医について説明し、全利用者が協力医の往診を受けており、緊急時は協力医に連絡し適切な医療が受けられるよう支援している。歯科等専門医受診時は、家族で対応している。結果は、家族の面会時や電話で報告し、職員間は「申し送りノート」で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日々申し送りを通じ看護職員と情報を交換している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との連携を密にし、入院した際、安心して治療が出来る情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針にもとずき、状況を見ながら説明を行い、同意書をもらい主治医、全スタッフ、家族と情報の共有を密にし、支援に取り組んでいる。	重度化した場合や看取りケアについては、契約時に事業所の方針を説明している。身体状況の変化時は家族と相談しながら、状況に応じて同意書を取り交わし、医師・職員等の連携により支援に取り組んでいる。看取り等についての外部研修の機会には参加し、職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には初期対応が出来る様研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急マニュアル、連絡体制を整備し災害(大雪も)に対し、利用者が避難出来る様、全職員が身につけられる様努力している。	年3回、うち2回を消防署立会いのもとに、夜間想定を含めた避難訓練を実施している。緊急マニュアル連絡網を整備し、食糧品等3日間分を備蓄している。また、訓練は運営推進会議開催と同時に行ない、参加者の意見や感想を聞いている。	災害対策においては、訓練時を含め近隣住民等多くの参加が得られるような取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に傾聴する姿勢で接し、人生の先輩者として尊重するよう声掛けや支援を行っている。	人格を尊重し、常に同じ目線で話を聞くようにしている。呼び方はさん付けとし、居室入室時は声かけを徹底、トイレ誘導時はさりげない声かけに注意している。入浴は、一人づつの対応で支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のかかわりの中で思いや希望を実現出来る様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に応じた対応に心掛けているが、利用者相互の兼ね合いもあり、希望にそえない事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の趣向を尊重し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月2回お楽しみランチを入れ、それぞれの希望にそえる対応をしている。誕生会では毎回手作りケーキで楽しんでいる。レクの一環として、ホットケーキやたこ焼きなど利用者、職員、協力して作業をしている。	献立・食材は業者を利用し、2名の職員が調理を担当している。月に2回、利用者の希望を聞きながらお楽しみランチとしてバイキングを行ったり、誕生日のケーキやホットケーキ・たこ焼き作りを職員と一緒にしたりしている。手術後拒食になった方の「元気になるたい」の希望に、全職員で取り組み工夫して、食べられるようになった事例もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量、排泄チェックや月1回の体重測定など記録に残し個々にアドバイスをしながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、義歯洗浄を実施している。 歯ブラシ、コップも1日1回消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録を残し、排泄パターンを把握し、それをもとに声かけ、支援を実施している。 日頃より排泄の自立にむけた支援を心掛けている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導・介助を行ない、身体機能が重度の方であっても、日中はトイレでの排泄支援をしている。歩行訓練・リハビリ体操等を行ない、退院後オムツ使用から布パンツに替わった方がいるなど、排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や、体操等による身体的な促しと共に内服コントロールなど個別に支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	楽しく入浴が出来る様、又、本人の体調に合わせて柔軟に支援している。	入浴は、季節により4月～10月の間は週3回、11月～3月は週2回実施している。一人づつ対応し、身体機能の重度の方においても2人で介助し浴槽につかれるよう支援している。入浴拒否時は無理強いせず、足浴をするなど支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状況、体調に合わせて休息して頂いている冬場は入浴日以外の足浴なども実施。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実に服薬支援を行い、医師、薬剤師、看護師、介護職など職種をこえた連携により情報を共有服薬の支援と変化の確認につとめている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人のADLに合わせて洗濯物たたみや、新聞たたみなど軽作業を行って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事担当職員が季節に合わせた外出行事や天気の良い日や希望に沿い買物等支援している。	天気の良い日は、庭で外気浴をしたり、職員と一緒に近くのスーパーに買い物に出掛けたりしている。年間行事計画により、季節毎の花見や法人のバス旅行でリンゴ狩り等、外出支援に取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に管理出来る方は財布を持ち、希望があれば職員が付き添って買物など可能な限り支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ支援している。 手紙に関して現在まで希望が出ていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く明るいホールになっており、利用者は心地よく過ごせる様になっている。 ホールにはテレビが2台あり、自席又はソファ一席で見る事が出来る。 季節にあった飾りなど工夫している。	玄関入り口には、地域の方が持参した菊の鉢が置かれている。共用の居間は、天井が高く明るく光が差し込み、季節の飾りつけがされている。2台のテレビが位置を変え設置され、自席やソファで思い思いに過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士ゆっくり過ごせる様、席の配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	歩行介助者やトイレ介助者をトイレの近くに入所してもらっている。自分の使っていたドレッサーや仏壇など使い慣れた物を置いて安心出来る様にしている。	トイレに近い部屋など、居室は身体状況を見ながら決めている。居室内は仏壇や馴染みの家具等が設置され、誕生日の手作りケーキを持った写真が飾られる等、本人が居心地良く過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に応じ環境整備に努めている。利用者が混乱しないよう職員同士話し合っ工夫している。		